

「パートナーシップ構築宣言」

当社は、サプライチェーンの取引先の皆様や価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップを構築するため、以下の項目に重点的に取り組むことを宣言します。

1. サプライチェーン全体の共存共栄と規模・系列等を超えた新たな連携

直接の取引先を通じてその先の取引先に働きかける（「Tier N」から「Tier N+1」へ）ことにより、サプライチェーン全体での付加価値向上に取り組むとともに、既存の取引関係や企業規模等を超えた連携により、取引先との共存共栄の構築を目指します。その際、災害時等の事業継続や働き方改革の観点から、取引先のテレワーク導入やBCP（事業継続計画）策定の助言等の支援も進めます。

（個別項目）

a. 企業間の連携（オープンイノベーション、M&A等の事業承継支援等）

- ・ 当社はつくばの国研物質・材料研究機構のスピンアウト Startup 企業です。独自の断熱材 TIISA®を活かした製品開発を行っています。応用分野が多岐に渡っており、その対象分野の製品化に強みを有する事業者、そしてその先の市場開拓・参入に強みを持つ事業者との Tier N+1 連携に積極的に取り組みます。

d. グリーン化の取組（脱・低炭素化技術の共同開発、省エネ診断に係る助言・支援、生産工程等の脱・低炭素化、グリーン調達等）

- ・ 当社は独自の断熱材 TIISA®を気候変動対策に活かすという志で 2021 年に起業しました。水素社会構築のためのサプライチェーンにおいては液化水素の保冷容器に必要な高性能な断熱充填材で貢献を目指しています。保冷容器・保冷施設製造販売事業者とその先の運営事業者との Tier N+1 連携に積極的に取り組みます。
- ・ 即効性のある気候変動対策として省エネルギーが非常に大切です。省エネルギーの高い TIISA®断熱塗料を建物外装塗料として普及していくために塗料の販売事業者とその先の建物のオーナーとの Tier N+1 連携に積極的に取り組みます。そのために TIISA®断熱塗料の塗布による省エネルギー効果の見える化にも努めます。TIISA®断熱塗料は生産設備の省エネルギー化にも有効です。生産工程等の脱・炭素化を進めるためにも工場設備製造事業者、工場運営者との Tier N+1 連携に積極的に取り組みます。
- ・ TIISA®断熱材の生産において薬液のリサイクルを積極的に行い自らの生産工程での環境負荷を最小化するとともに原料の購入に際して、環境負荷の少ない商品や環境配慮に積極的に取り組んでいる企業から優先的に調達を行います。

2. 「振興基準」の遵守

親事業者と下請事業者との望ましい取引慣行（下請中小企業振興法に基づく「振興基準」）を遵守し、取引先とのパートナーシップ構築の妨げとなる取引慣行や商慣行の是正に積極的に取り組みます。

①価格決定方法

不合理な原価低減要請を行いません。取引対価の決定に当たっては、下請事業者と少なくとも年に 1 回以上の協議を行うとともに、下請事業者の適正な利益を含み、下請事業者における労働

条件の改善が可能となるよう、十分に協議して決定します。その際、「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」に掲げられた行動を適切にとった上で決定します。また、原材料費やエネルギーコストの高騰があった場合には、適切なコスト増加分の全額転嫁を目指します。なお、取引対価の決定を含め契約に当たっては、契約条件の書面等による明示・交付を行います。

③手形などの支払条件

下請代金は可能な限り現金で支払います。手形等で支払う場合には、割引料等を下請事業者の負担とせず、また、支払サイトを 60 日以内とします。

④知的財産・ノウハウ

「知的財産取引に関するガイドライン」に掲げられている「基本的な考え方」や、「契約書ひな形」を踏まえて取引を行い、片務的な秘密保持契約の締結、取引上の立場を利用したノウハウの開示や知的財産権の無償譲渡などは求めません。

⑤働き方改革等に伴うしわ寄せ

取引先も働き方改革に対応できるよう、下請事業者に対して、適正なコスト負担を伴わない短納期発注や急な仕様変更を行いません。災害時等においては、下請事業者に取引上一方的な負担を押し付けないように、また、事業再開時等には、できる限り取引関係の継続等に配慮します。

令和 6 年 1 2 月 7 日

株式会社 Thermalytica

企 業 名

代表取締役 小沼 和夫

役職・氏名（代表権を有する者）

（備考）

- ・本宣言は、（公財）全国中小企業振興機関協会が運営するポータルサイトに掲載されます。
- ・主務大臣から「振興基準」に基づき指導又は助言が行われた場合など、本宣言が履行されていないと認められる場合には、本宣言の掲載が取りやめになることがあります。